

一般国道478号京都縦貫自動車道における 道の駅「京丹波^{きょうたんば} 味夢^{あじむ}の里^{さと}」の整備について

原田 聡¹

¹京丹波町 土木建築課 開発プロジェクト推進室（〒622-0292京都府船井郡京丹波町蒲生八ツ谷62番地6）

本町で整備が進められている京都縦貫自動車道丹波綾部道路が開通すると利便性の向上をもたらす反面、「通過するまち」となることが懸念されている。そのため本町では、丹波パーキングエリア（仮称）の整備に併せて、地域活性化の中心となる「道の駅」の整備を進めている。道路利用者に高質な道路休憩サービスを提供することで、確実な誘導による経済収入の確保、地域情報の発信、交流による活性化、さらに施設利用をきっかけとした地域への直接誘導を図ることを目的としており、その事業内容と地域活性化への取組について紹介するものである。

キーワード 地域活性化、道の駅、PFI/PPP

1. はじめに

京丹波町は、京都府のほぼ中央部に位置し、面積の83%を森林が占める農山村地域である。丹波高原の気候、風土を生かした農業や畜産業が盛んに行われ、総合的な食の供給地としての産地を形成している。

本町で整備が進められている京都縦貫自動車道丹波綾部道路は、平成26年度開通予定であり、広域的な高速道路ネットワークが形成され、観光圏の拡大及び物流の効率化による地域産業の活性化に寄与する。一方で、本町内においては開通に伴い一般道を利用していた車両の多くが京都縦貫自動車道を利用することとなり、地域活力の沈滞が懸念されている。そこで丹波パーキングエリア（仮称）の整備に併せて、休憩ニーズと地域振興ニーズを結びつけた地域活性化の中心となる道の駅を整備する。



2. 道の駅「京丹波^{きょうたんば} 味夢^{あじむ}の里^{さと}」の概要

(1) 施設概要

- ・登録：2014年4月4日
- ・所在地：京都府船井郡京丹波町曾根深シノ65番地1
- ・全体面積：約34,000m²
- ・駐車台数：190台（大型36台，小型150台，身障者4台）
- ・トイレ：60器（男性23器，女性33器，身障者4器）
- ・地域振興施設：
 - 特産物販売施設，情報発信施設
 - レストラン，フードコート，加工施設
 - 交流広場，上屋



図-1 位置図

(2) 施設の配置計画

本施設の配置計画は、図-2のとおりであり、当初計画の上下線分離型PAから上下線一体型PAへと計画を変更し、丹波PA駐車場と一般道側駐車場のどちらからも地域振興施設へとアクセスしやすいように位置を決定した。

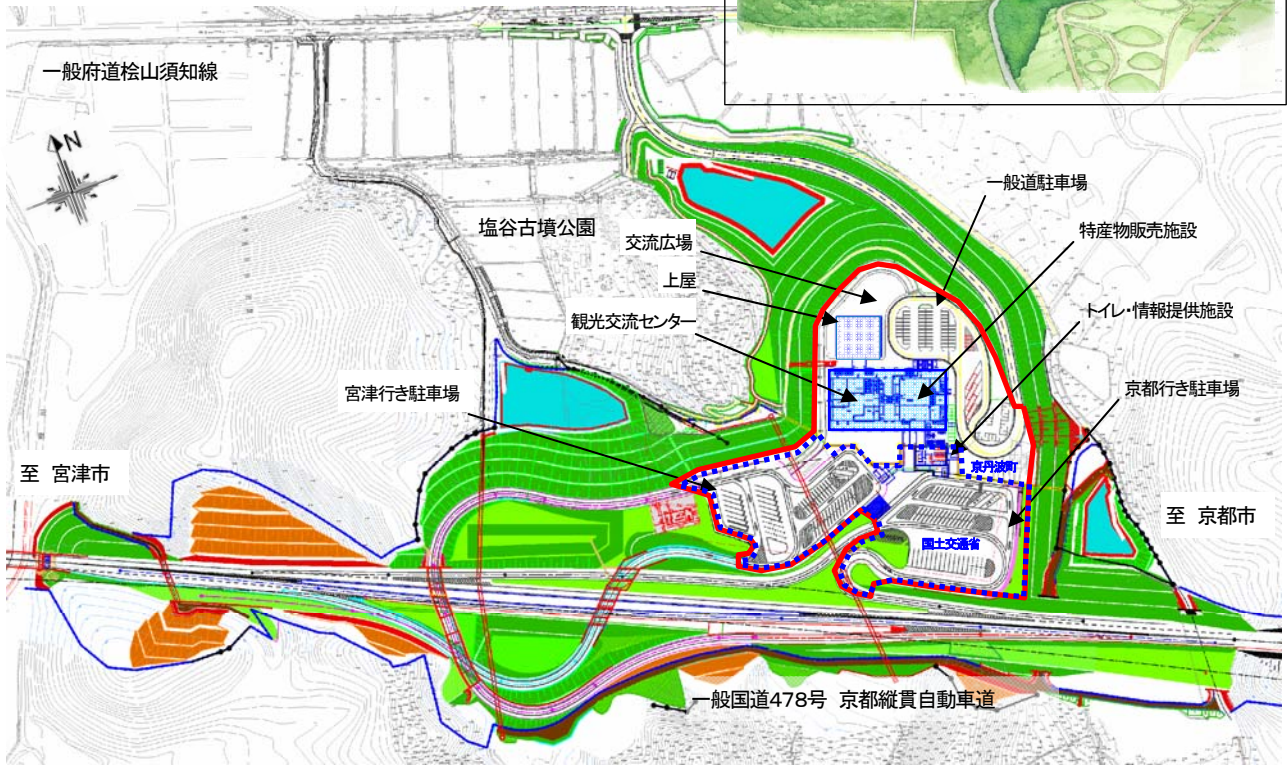


図-2 施設配置図

(3) 地域振興拠点の整備計画

本施設の整備コンセプトは、「ハイウェイテラス・京たんば ～温かみとこだわりでもてなす京都丹波ブランドの発信基地～」として、その拠点機能は「交流拠点」，

「情報発信拠点」，「おいしさの拠点」と位置付けた。また、導入機能は表-1のとおりとし、整備の基本方針を定めて必要な施設を検討した。

表-1 導入機能

導入機能	施設名	整備の基本方針
交流拠点	交流広場	家族みんなで楽しむことのできる施設や地元の団体・サークル・小中学生の活動や発表の場として利用することのできる屋外型のイベント施設の整備が考えられる。また、古墳や田園などの風景を楽しみリラックスできる空間として整備する。
情報発信拠点	地域情報発信センター	地域の紹介、周辺施設、地域のイベントの情報発信コーナーや地元団体・サークルの作品等の展示スペースを整備する。
	周遊サービス施設	バスの停留所やレンタサイクル等の地域を周遊するための入口となる空間を整備する。
おいしさの拠点	飲食施設	地元産農作物と美しい風景を両方堪能できるレストラン、カフェを整備する。
	特産物販売施設	地域の特産品や加工品、野菜等農作物販売スペースを確保する。
	ミーティングルーム	地元農家で構成される販売部会が農作物の生産、品質について会員研修などを行う。
	加工施設	新たな京都丹波ブランドとなりうる加工品を製造する。
その他	便所	縦貫道の交通量および松山須知線からの利用者を踏まえて整備する。
	事務室	管理運営に必要なスペースを想定する。
	会議室	
	更衣室	
	倉庫	
	電気・機械室	
	防災拠点施設	大規模災害時における、救援物資等の中継基地、救援部隊等の活動拠点および道路利用者の一時避難施設として機能する施設を整備する。

3. PPP方式による整備・運営手法について

本施設の設計、建設及び維持管理・運営については、民間のノウハウ・経営能力等の活用を図るため、民間事業者に一括して発注するDBO方式を採用した。

(1) DBO方式について

DBO方式 (Design Build Operate) とは、町が起債や交付金等により自ら資金調達し、施設の設計、建設及び維持管理・運営等を民間事業者包括的に委託する方式である。一括発注による事業全体計画の最適化や、性能発注により民間事業者のノウハウを活かした建設費削減が図られるため、コスト削減が期待できる。また、資金調達を町が行うため、PFI方式のような民間金融機関の資金調達に比べて金利コストを縮減できる。

	資金調達	設計・建設	維持管理	監視
従来方式	町	町 民間	町 民間	町
DBO方式	町	民間	民間	町
【参考】PFI方式	民間	民間	民間	町

項目	従来の民間委託・請負	DBO方式	【参考】PFI方式
委託期間	原則単年度	長期間(15～20年程度)	長期間(15～20年程度)
委託範囲	個別業務ごとの場合が多い	包括的	包括的
建設費	町が負担 (一般財源、補助金、起債等)	町が負担 (一般財源、補助金、起債等)	民間側が立替え (事業者が資金調達)
発注方法	仕様発注 (公共側の判断・仕様に基づく)	性能発注 (要求水準を自社責任で解釈)	性能発注 (要求水準を自社責任で解釈)
対価払い	個別業務ごとに一括で支払い	個別業務ごとに一括で支払い	委託期間中に平準化して支払い
リスク	基本的に町が負う	各契約書に定めた分担に基づく	事業契約書に定めた分担に基づく
業務改善 インセンティブ	働きにくい (民間事業者の創意工夫の余地小)	働きやすい (民間事業者の創意工夫の余地大)	働きやすい (民間事業者の創意工夫の余地大)

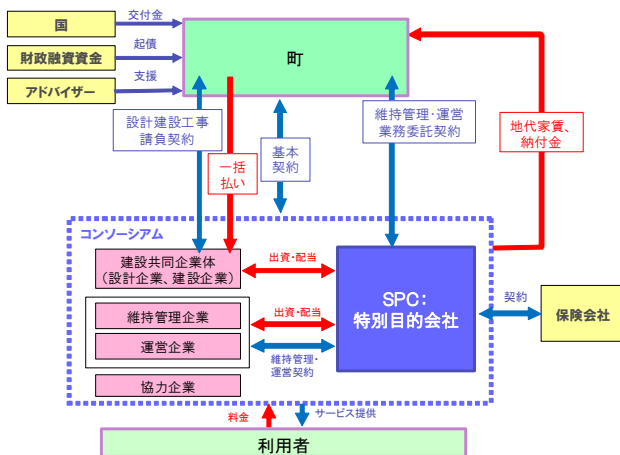


図-3 DBO方式の事業スキーム

(2) DBO方式の事業プロセス

本事業では、施設整備、維持管理・運営の各業務を通じて、事業者に効率的・効果的かつ安定的・継続的なサービスの提供を求めるものであり、幅広い事業能力を総合的に評価することが必要である。そのため図-4に示す事業プロセスで事業者選定を行った。

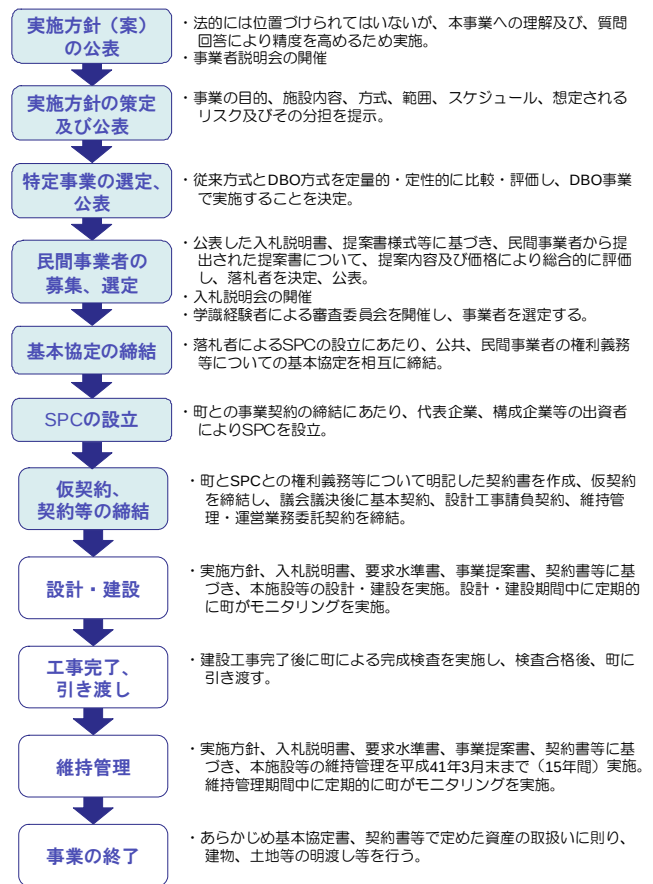


図-4 DBO方式の事業プロセス

(3) DBO方式における地域住民、地元企業の参画を促す仕組み

PFI事業等ではノウハウのある大手企業が中心となりコンソーシアムを組成する例が多く、地元企業が本事業へ参画するには高いハードルがある。そこで、地域住民、地元企業の参画を促す仕組みとして、以下に取り組んだ。

a) 地元企業がコンソーシアムに参画しやすい条件整備

- ・ 商工会や建設業協会を通じて、地元企業に事業者向け説明会への参加を呼びかけ
- ・ 事前登録により、地元企業とPFI経験企業のマッチングの場を創出
- ・ 地域内連携を促進するため、地元企業の参画を必須条件とする
- ・ 地元企業が複数のコンソーシアムへ参画できるように、協力企業の参加要件を緩和
- ・ 事業手法への理解を深め、地元企業の入札参画を促すため、個別相談会を実施

b) 地域住民等を巻き込んだ地域活性化の仕掛けづくり

- ・ 農産物、加工品の出荷者のために、出荷者協議会の設立を事業者へ義務付け
- ・ 地域振興に関する自主事業の提案を積極的に受け入れるため、アイデアを募集

4. 事業内容

(1) 設計・建設

a) 概算事業費

- ・1,825百万円（うち施設整備費784百万円）

b) 設計・建設期間

- ・2013年6月19日～2015年3月31日

c) 施設の特徴

- ・「ふるさとの原風景」の懐かしさと新しさを融合した京丹波町の新たなシンボル
- ・施設中央に縦貫道側と一般道側をつなぐウェルカミングゲートを配置
- ・朝市などの活用スペースとして、広い軒下空間を確保



施設全景（縦貫道側）



施設全景（一般道側）



施設全景（鳥瞰図）



ウェルカミングゲート

すべての人々を歓迎する ふるさとの新しい玄関口



フードコート

京丹波町の雄大な自然を望む 賑わいのお食事スペース



軒下コンコース

京丹波町の笑顔とおいしさにふれあえるイベントスペース



レストラン

時間の流れにゆっくりと寄り添う 安らぎのお食事スペース



京丹波ステーション

木のぬくもりに満ちたくつろぎの情報発信拠点



京丹波マルシェ

京丹波町のおいしさの魅力に心がときめく大市場

図-5 道の駅「京丹波 味夢の里」整備イメージ

(2) 維持管理・運営

a) 維持管理・運営期間

- ・2015年4月1日～2030年3月31日（15年間）

b) 指定管理者

- ・ROOF GATE株式会社（特別目的会社：SPC）

c) 事業者提案

- ・ワークショップの開催

地域の人々の意見を反映した施設運営を実現するため、
ワークショップを開催

観光ボランティアの育成による地域情報発信

- ・着地型観光の促進

京丹波コンシェルジュの常駐

観光ボランティアの育成による地域情報発信

- ・京丹波ブランドの確立

食の供給地としての魅力を発信し、ブランドを確立

観光協会や須知高校等の関係団体との連携によりオリジナル商品を開発

加工施設を、「食の祭典」グランプリ等のチャレンジショップの場として提供

- ・町全体の活性化への寄与

既存道の駅との共同イベント展開や、林業大学校、京丹波森林組合との連携

- ・出荷者協議会

会員へのスキルアップ・情報共有のための研修を開催、定期的な情報交換を実施



図-6 ワークショップ開催状況



図-7 運営に係る事業者提案

5. 地域活性化に向けた現在の取組

(1) 出荷者協議会の設立

現在、出荷者協議会設立に向けて会員募集を始めたところであるが、町内3箇所で開催した地元説明会には200名以上の出席者があり、本施設への関心の高さが窺える結果となった。農産物等の出荷を通じて営農意欲を高め、食の供給地としての確かな農村振興に繋げていくため、農業改良普及センター等の関係機関とも連携を深めて京丹波ブランドの魅力を発信し、堪能できる施設運営を目指している。



図-8 農産物等出荷者協議会 説明会

(2) 地元区との連携

地元区である曾根地区では、丹波自然運動公園と連携して「あっぱれたんぼ」に取り組み、魅力ある地域作りを目指し活動してきた。更に本事業を契機として、曾根地域の産業・観光振興等を促進し、地域活性化と地域力向上を目的に京丹波町曾根活性化対策協議会が設立された。女性加工グループの設立も進められ、新たな特産品開発に向けて意欲的に活動され、今後は、本施設への農作物出荷やイベント活用にも取り組まれる。



図-9 地域の取組「あっぱれたんぼ」



図-10 特産品開発に向けた地域でのラベンダー育苗

(3) その他関係団体との連携

京丹波ブランドの確立、地域情報発信等への取組は、運営開始に先立ち、町内外の関係団体と連携して進めている。その中の一部を紹介する。

a) 京都府立須知高等学校

- ・食品科学科のノウハウを活かして、新たな特産品開発を行う「ブランド検討委員会」への参画
- ・加工施設での特産品製作、販売実習
- ・校内で生産されているアイスクリーム、ヨーグルト等の須知高校オリジナル商品の販売



図-11 須知高校のヨーグルト製造

b) 平安女学院大学

- ・「ブランド検討委員会」に参画し、学生、女性の観点からの消費者ニーズを捉えた商品開発
- ・町の見どころを紹介する「手作り観光マップ」の作成



図-12 平安女学院大学にて町観光資源の説明

c) 京都府立林業大学校

- ・大学生が切り出し加工した木材を使用した什器の制作

6. まとめ

今回、道の駅を整備するにあたり、民間事業者のノウハウを活用するDBO手法を本町では初めて採用した。

事業者選定に至るまでの事前準備には、相当の事務作業と期間が必要になるものの、事業者選定後は、設計・建設・維持管理・運営業務をまとめた総括的な事業スケジュールの最適化が可能となる。また、事業者の提案書から早期に具体的な運営をイメージして準備に着手できるメリットがある。

道の駅のような地域振興施設は、運営が成否の全てを握っていると言っても過言ではない。「通過するまち」から脱却し、新たな交流人口の創出を目指して、地域活性化への取組を今後も一層進めていく。

謝辞：本事業の整備におきましては、国土交通省をはじめとする関係機関の皆様には多大なご協力を賜っております。心より感謝申し上げます。